

令和6年度第3回越谷市文化財調査委員会

日 時 令和6年11月22日（金）午後2時～
会 場 越谷市役所第二庁舎3階 教育委員会室

次 第

- 1 開 会
- 2 協議事項
 - （1）文化財指定について
 - ①指定文化財候補4 旧東方村中村家系譜
 - ②指定調書（案）
- 3 そ の 他
- 4 閉 会

— 越谷市文化財調査委員名簿 —

(任期：令和5年8月1日～令和7年7月31日)

(50音順 敬称略)

No.	氏 名	所属・役職等	任 期
1	いた がき とき お 板 垣 時 夫	埼玉県文化財保護協会 副会長	R7.7.31 まで
2	か とう こう いち 加 藤 幸 一	元越谷西特別支援学校 教諭	R7.7.31 まで
3	たか さき こう じ 高 崎 光 司	元埼玉県立越ヶ谷高等学校 教諭	R7.7.31 まで
4	はし もと ゆういちろう 橋 本 雄一郎	越谷市立平方小学校 主幹教諭	R7.7.31 まで
5	はた の ひで あき 秦 野 秀 明	NPO 法人越谷市郷土研究会 副会長	R7.7.31 まで
6	はやし たかし 林 貴史	久喜市文化財保護審議会 委員	R7.7.31 まで
7	や ぐち たか えつ 矢 口 孝 悦	元羽生市教育委員会 事務局職員	R7.7.31 まで

2 協議事項

(1) 文化財指定について

①<指定候補 4> 旧東方村中村家系譜について

<指定候補 4> 旧東方村中村家系譜	
(1)種別・種類	有形文化財・歴史資料
(2)名 称	旧東方村中村家系譜
(3)員 数	2通
(4)所 在 地	埼玉県越谷市大成町二丁目285-1
(5)所 有 者	中村 治雄

1 概要

旧東方中村家系譜は越谷市指定有形文化財「旧東方村中村家住宅」の建築年代(安永元年)の根拠としている資料で、武蔵野国埼玉郡八条領東方村(越谷市大成町)で名主を務めた下組中村家の歴代当主やその時代の出来事などを記した系譜。

中村家には3通の系譜があり、文化財指定候補は嘉永4年作のものと明治後期頃作の系譜の2通。

1通目は嘉永4年(1851)に作成され元祖中村孫左衛門平義廣から12世中村孫左衛門重貞までの系譜。

2通目は作成年代が不明だが、明治34年の没年が記載されている人物で終了しているため明治後期と推定。元祖中村左近将監から15世孫左衛門重貞までの系譜。

1通目と2通目で歴代当主の世代数が異なっているのは、元祖をどこで見るかによって記述が異なっているため。

3通目は昭和13年作成のもので、天保12年生まれの中村治太郎から明治29年生まれの中村貞治までの系譜。3通目については十分に余白があり、今後も加筆していきたいという所有者の希望があるものです。

文化財指定候補の1通目・2通目とも中村孫左衛門智宗(1通目では9世、2通目では12世)の代に「安永元辰年今の居宅東蔵廐等を造立す」(1通目)、「安永元辰年今の居宅蔵廐等を造立す」(2通目)との記載があり、これが市指定有形文化財・建造物である「旧東方村中村家住宅」の建築年代の根拠となっている。

2 指定対象 2通

3 資料概要

	制作年	元祖	記載終わり	旧東方村中村家住宅 年代根拠
1 通 目	嘉永4年	中村孫左衛門平義廣 ※慶長17年御検地の案内名主	(12世) 孫左衛門重貞 ※文政元年生まれ	9世智宗 「安永元辰年今の居宅東蔵廐等を造立す」
2 通 目	明治末期?(明治34年の記述あり)	中村左近将監 ※太田道灌の家臣・大相模に住む郷士	(15世) 孫左衛門重貞 ※文政元年生まれ	12世智宗 「安永元辰年今の居宅蔵廐等を造立す」

②指定調書(案)について

<指定文化財候補1>越谷市指定文化財調書(案)

1 名称

青い目の人形(付 パスポート他)

2 種別・種類

有形文化財・歴史資料

3 員数

6点

(1)青い目の人形 (2)パスポート (3)友情の手紙 (4)市松人形
(5)受領会の写真(2点:大沢小学校・大袋小学校)

4 所在地

埼玉県越谷市大沢二丁目13-21

5 所有者

越谷市教育委員会(管理 大沢小学校)

6 年代

昭和2年

7 規格(形状、構造、法量、状態等)

(1)青い目の人形

像高:40.0cm 頭頂部から顎:11.0cm 耳張:9.0cm 股下:15.0cm
背中の発声器:直径 5.5cm

(2)パスポート

縦 15.4cm、横 17.8cm、両面印刷二つ折り

(3)友情の手紙

①手紙 縦 15.8cm、幅 25.1cm

②封筒 縦 8.4cm、横 12.9cm

(4)市松人形

像高 43cm、頭頂から顎まで 11cm

(5)受領会の写真(2点:大沢小学校・大袋小学校)

<大沢小学校所蔵写真>

①写真 縦 14.9cm、横 10.6cm

②台紙 縦 21.3cm、横 16.9cm

<大袋小学校所蔵写真>

①写真 縦●cm、横●cm

8 所見

青い目の人形(友情人形)はアメリカとの政治的緊張が高まっていた昭和 2 年に日米友好の象徴として日本のひな祭りに合わせてアメリカから贈られてきた 11,975 体の人形。そのうち埼玉県内には 178 体の人形が配布され、現在 11 カ所 12 体の人形が現存している。旧大沢尋常小学校へ配布された1体が、現在の大沢小学校に現存している。

青い目の人形は、製造元は米国アベレル社製の「マダムヘンドレンドール」。構造はおがくずなどを固め、型抜きして作られたコンポジションドールで、頭部から肩部までが一体となっている。現在は壊れているが、腹部には「ママ」と叫ぶ発声機が付いている。腕と足は頭部などと同じ素材で、押型で作っている。手足は可動式で寝かせると瞼を閉じるオープンアイ工法となっている。瞳は義眼を使っている。人形の背中には「GENUINE MADAM HENDREN DOLL 216」と体部に印字されている。服装は、帽子、マント、肌着、カーディガン、ズボン、靴。着ている服は米国の子供たちの手づくりだと思われる。名前はマーサヒース。

パスポートは日本全国で確認されているパスポートと同一の様式。表紙には「人形査証」との表題があり、「日本帝国総領事館在証」の印が円形に印刷されている。内面の左側は日本の子供たちへのメッセージとなっており、人形の名前が書き込めるものとなっている。内面の右側は名前、目の色、髪の色、鼻、口、出生地など、人形の概要が書き込めるようになっている。右下の人形の写真は印刷で共通のもの。また、日本行の鉄道の片道切符と星条旗のタグが張られている。裏面は日の丸と星条旗、「特別旅行免状」と印刷されている。上部に「No.4,869」と個別番号がタイプされており、内面に貼られている鉄道の切符と同じ番号になっている。

友情の手紙は紙を四つ折りにして同色の封筒に入っている。日本の子供たちに宛てたマンチェスター市フランクリン街日曜学校のバルベラ・ベルチューからの手紙。

市松人形は、製造社は不明。名前は大沢愛子と伝わる。顔は回り、髪は黒く固い素材。手先、足先以外は藁。瞳は義眼。壊れているが、腹部に泣き笛が入っている。服装は、赤い生地にボタンや菊の模様の振袖を着て、帯を締め、帯留めを付けている。帯は背中で「立て矢の字結び」としている。素足。

受領会の写真は「南埼玉郡教育会 越谷支会受領会」の写真と伝わっている。

大沢小学校所蔵写真は子供たちが人形を抱きかかえ、奥には日本人形が並んだ雛壇がある。手前で 6 人の少女に抱きかかえられている人形のうち、前列一番左端の少女が抱きかかえている人形が帽子をかぶり広い襟のついたコートを着ていることから、大沢小学校蔵の青い目の人形と思われる。また奥の雛壇の市松人形は、和服の模様などから一列目右端が大沢小学校所蔵の市松人形と思われる。写真台紙には「Photographic ARTIST」と印字されている。大袋小学校所蔵写真は雛壇部分の近景写真。最上段に 6 体の青い目の人形が飾られており、その前に市松人形が飾られている。最上段左から二つ目が大沢小学校蔵の青い目の人形と思われ、最前列の右端が大沢小学校所蔵の市松人形と思われる。

各資料は昭和 2 年に日米人形交流事業としてアメリカから送られてきた友情人形、いわゆる青い目の人形などで間違いない。市松人形はおそらく受入れ校でお友達として用意されたもので、写真も受領会の様子であろう。

市内には 4 体送られたという記録があるが、唯一現存している貴重な資料である。

<指定文化財候補2>越谷市指定文化財調書(案)

1 名称

越ヶ谷小学校校務日誌

2 種別・種類

有形文化財・古文書

3 員数

8 冊

(1)昭和 15 年度 2冊 (2)昭和16年度 1冊 (3)昭和 17 年度 2冊
(4)昭和 19 年度 1冊 (5)昭和 20 年度 1冊 (6)昭和 21 年度 1冊

4 所在地

埼玉県越谷市越ヶ谷四丁目2番1号

5 所有者

越谷市教育委員会

6 年代

昭和 15 年度、昭和16年度、昭和 17 年度、昭和 19 年度、昭和 20 年度、昭和 21 年度

7 規格(形状、構造、法量、状態等)

(1)形状 縦 24.5 cm、横 17.0 cm 冊子
(2)記入用紙 別紙1のとおり

8 所見

越ヶ谷小学校は明治 6 年に越ヶ谷学校として創立され、大正 11 年に越ヶ谷尋常高等小学校、昭和 16 年に越ヶ谷国民学校、昭和 22 年に越ヶ谷町立越ヶ谷小学校、昭和 29 年に越谷町立越ヶ谷小学校、昭和 33年に越谷市立越ヶ谷小学校と改称して現在に至っている。

指定候補の「越ヶ谷小学校校務日誌」は越ヶ谷尋常高等小学校、越ヶ谷国民学校時代の日誌で、昭和 15 年度、16年度、17 年度、19 年度、20 年度、21 年度の 6 か年度分。

日誌には来校者、職員出張、職員研修、学校行事など学務的な内容を中心に、当時の学校生活の様子が記されている。これらに加えて、荻島飛行場や市内工場への勤労奉仕に関する事項、空襲警報・警戒警報に関する事項、出征者や戦没者(英霊)のお見送り・出迎えに関する事項など当時の社会情勢も記録されている。昭和 20 年 8 月以降は御真影の奉還、修身・国民・地理の教科書回収、新教育講習会への参加など、民主主義教育の歩みを示す資料となっている。

資料は越谷市教育委員会が所蔵しているため、資料の散逸の危険はなし。

越ヶ谷小学校校務日誌は市内学校教育の変遷を記録し、かつ時系列で出来事が記録されている貴重な資料である。

別紙1

7 規格(形状、構造、法量、状態等)

<記入用紙>

No.	年度	資料名	印刷	見開き	日付	項目など
1	S15	当直日誌	活字印刷 (文字青)	4日	S15/4/1～ S16/4/1	<金具止め> 日付・曜日・気象・気温・検印・当直・宿直・科別(尋常課・高等科)/種別(出席児童数・欠席児童数)・百分比・職員・記事
2	S15	宿直日誌	活字印刷 (文字黒)	8日	S15/4/1～ S16/4/1	<金具止め> 日付・曜日・気象・ <u>引継時間</u> ・検印・宿直・ <u>使丁</u> ・ <u>巡視時間</u> ・ <u>就寝時間</u> ・記事
3	S16	宿直日誌	活字印刷 (文字黒)	8日	S16/4/1～ S17/4/21	<金具止め> 日付・曜日・気象・ <u>引継時間</u> ・検印・宿直・ <u>使丁</u> ・ <u>巡視時間</u> ・ <u>就寝時間</u> ・記事
4	S17	日誌	手書きガ リ版(文 字黒)	4日	S17/4/1～ S17/10/1	<綴じ> <表紙と裏表紙は越ヶ谷青年学校の表彰状> 日付・曜日・気象・気温・検印・当直・宿直・科別(尋常課・高等科)/種別(出席児童数・欠席児童数)・百分比・職員・記事
5	S17	宿直日誌	手書きガ リ版(文 字黒)	4日	S17/10/6～ S18/2/22	<綴じ> 日付・曜日・気象・気温・検印・当直・宿直・科別(尋常課・高等科)/種別(出席児童数・欠席児童数)・百分比・職員・記事
6	S19	校務日誌	手書きガ リ版(文 字黒)	4日	S19/4/1～ S20/3/31	<綴じ・宿直と当直を書き込む様式> 日付・曜日・気象・温度・検印・当直・ <u>勤務時間</u> ・出席状況【(科別:高等科・初等科)・出席数・欠席数・合計・出席百分比・ <u>記事</u> 】・検印・宿直・ <u>勤務時間</u> ・ <u>記事</u>
7	S20	校務日誌	手書きガ リ版(文 字黒)	4日	S20/4/1～ S21/3/30	<綴じ・宿直と当直を書き込む様式> 日付・曜日・気象・温度・検印・当直・勤務時間・出席状況(科別:高等科・初等科)・出席数・欠席数・合計・出席百分比・ <u>記事</u> ・検印・宿直・ <u>勤務時間</u> ・ <u>記事</u>
8	S21	校務日誌	手書きガ リ版(文 字黒)	4日	S21/3/31～ S22/3/31	<綴じ・宿直と当直を書き込む様式> 日付・曜日・気象・温度・検印・当直・勤務時間・出席状況【(科別:高等科・初等科)・出席数・欠席数・合計・出席百分比・ <u>記事</u> 】・検印・宿直・ <u>勤務時間</u> ・ <u>記事</u>

<指定文化財候補 3> 越谷市指定文化財調書(案)

1 名称

瓦曽根溜井防水記念碑

2 種別・種類

有形文化財・歴史資料

3 員数

1 点

4 所在地

谷古田河畔緑道スポット広場(埼玉県越谷市相模町一丁目)

5 所有者

越谷市(埼玉県越谷市越ヶ谷四丁目2番1号)

6 年代

明治 26 年

7 規格(形状、構造、法量、状態等)

(1)形状 石 碑:高さ 265cm 幅 135cm 厚 17cm
基礎石:高さ 30cm 幅 152cm 厚 89cm

8 所見

瓦曽根溜井防水記念碑は明治23年の洪水の時に瓦曽根溜井の防水に成功したのを記念し、明治 26 年に建碑された。題字は「日本近代郵便の父」と呼ばれる前島密、碑文は樋口恵三、石工は青木宗次。

石碑の建碑にあたっては、大相模村鈴木仁太郎、蒲生村中野柳助、川柳村深井七郎兵衛、八條村鈴木仁左衛門、八幡村■水圭太郎、潮止村田中半左工門らが首唱者となり、大相模村、川柳村、八条村、潮止村、■■■村、草加町、東京府などから賛成者を募っている。

碑文には、明治 23 年 8 月 23 日に下中条の堤防が決潰し、葛西用水路(古利根川)や見沼代用水路に水が入った。25 日朝にはこの地(瓦曽根溜井)でも合流した元荒川や古利根川が決壊するようであった。この堤(瓦曽根溜井)は四水門(八条用水・四ヶ村用水・谷古田用水・東京葛西用水)の垠元のため、決壊すると下流(東京府など)が洪水を招く咽喉部にあたる。このため関係諸村は一斉に警鐘を鳴らし、人々を動員して水防に努めた。この時、上流の対岸にある大林の堤防が決壊し、人々が右往左往する惨事となった。28 日には再び風雨が強くなって瓦曽根溜井の水量が増したため、東京府にも応援を求め、人々は昼夜を問わずかがり火を設置して水防に努めた。この時下流古利根川の対岸の木売の堤防が決壊し、水の勢いが弱くなった。9 月 10 日には平常に復した。利根川からの溢水で埼玉県の半分が水に浸かったが、この地は危機を逃れた。この防水のことを顧みると、昼夜眠らず狂奔し、活動したことから水防に成功した。建碑してこのことを後世に伝える。

石碑は現在公園の中にあり、散逸の危険はない。また国土交通省提唱の「自然災害伝承碑」に登録されており、周知されている。

市内では数少ない水害や防水とのかかわりを示す貴重な資料である。

<指定文化財候補 5> 越谷市指定文化財調書(案)

1 名称

越谷隕石

2 種別・種類

有形文化財・歴史資料

3 員数

1点

4 所在地

埼玉県越谷市大里 845-1

5 所有者

中村 勉

6 年代

—

7 規格(形状、構造、法量、状態等)

(1)重量 4.05 kg

8 所見

東京朝日新聞(明治 35 年 4 月 25 日付け)によると、「明治 35(1902)年 3 月 8 日の暁の頃に火山の噴火したような音がして、埼玉県南埼玉郡桜井村大字大里(現在の越谷市)の中村喜八氏の田に大きな穴ができ、四尺余りの底から奇石が発見され多くの群衆が見物に集まっている」と報道されている。発見された石は長く発見者の中村氏が保管している。

平成 3 年に所有者の中村勉氏と宮川進氏が独立行政法人国立科学博物館へ検査を依頼し、国立科学博物館、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立極地研究所、国立大学法人九州大学が成分分析を行った結果、宇宙線により生成する放射性核種(宇宙線生成核種)のアルミニウム-26(半減期約 70 万年)が検出され隕石であることが確認された。また、同じく宇宙線生成核種で半減期が約 2.6 年のナトリウム-22 は検出されず、落下してからナトリウム-22 が壊変しつくしてしまう程度の期間、少なくとも数十年前に落下した隕石であることも分かり、落下日の記録と整合的であることが確認された。

これらの成果をもとに令和 5 年 2 月 23 日、国際的な隕石の認証団体である国際隕石学会に「越谷隕石(Koshigaya)」として登録された。習志野隕石に続いて国内で 54 番目に確認された隕石。

越谷隕石は、郷土史として地域で言い伝えられていた事柄が科学的見地から隕石として証明された貴重な資料である。